

第 8 章 養護教諭が行う研究

1 養護教諭が研究する意義とは

「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について（答申）」（中央教育審議会，2008（平成20）年1月）によると、養護教諭の新たな役割として、養護教諭が子どもの現代的な健康課題に適切に対応していくためには、常に新たな知識や技能などを習得し続けていくことが必要である。

というのも、教員・養護教諭に限らず、ソーシャルワーカー、スクールカウンセラーなどにも当てはまることであるが、社会状況等の変化に伴って、これまでの専門職養成方法で培われた力量だけでは、現実的に起きている現代的な子どもの健康課題に効果的に対応できないという意識が芽生えたためである。そこで、それらの専門職では、相談場面や教室など自分の参加している現実世界で何が起きているのかを、自分で調査し理解する能力が強調されるようになってきた¹⁾。研究の必要性が認識されてきたのである。

したがって、現代の社会では、決められた仕事をこれまで通り、あるいは決められた通りに行う姿勢ではなく、新しい課題を発見してその課題の解決や改善に取組む探究的で革新的な態度が、養護教諭に求められている。たとえ養護教諭の職務と決められたものであっても、社会状況等の実態や変化に即して、その実践の方法を工夫しなければ、子どもや教職員の健康にとって効果的な活動を展開するのは難しい。

そこで、養護教諭が行う調査研究や実践研究は、私たちが子どもたちの生き方、健康課題に関わる現実的認識を得る上で、有力な手段であるといえる。また、これらの研究により生み出された知識や情報は、他の養護教諭や一般教員、管理職、保護者などと共有することが可能で、互いに議論し、共通認識を培う材料にできる。さらには、健康問題の心理社会的要因について知ることができ、その点をふまえた養護教諭の実践により子どもの健康問題の改善を図ることが可能となる。このような養護教諭が行う健康調査研究や実践研究の意義をまとめると、大きく次の3点である²⁾。

- ①これまでの子どもの健康課題に対する理解や認識を深め、変えること。
- ②新たな健康問題（課題）を発見し、解決あるいは改善すること。
- ③これまでの健康教育や養護実践、健康課題への対応や支援の方法を評価し、改善すること。